

中央労福協ニュース No.86 NEWSLETTER

労働者福祉中央協議会（中央労福協）
発行人 大塚 敏夫
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3-8 中北ビル5F
TEL 03-3259-1287 URL <http://www.rofuku.net>

2013年度 ブロック会長・事務局長会議

9月2日、兵庫県神戸市のホテルモントレ神戸にて、ブロック会長・事務局長会議を開催、11月29日の第61回定期総会を控え、全ブロックの会長、事務局長が出席し、議論を行った。

冒頭、主催者を代表し中央労福協の古賀伸明会長より「次期定期総会の活動方針策定や強化月間、共助拡大グループについて活発な議論をお願いしたい。また、巨大与党が誕生したことは、我々の運動にとっても大きな障害、ハードルが次々と押し寄せる事を覚悟しなければならない。労働、生活の分野でも巨大与党が打ち出す政策は、心して危機感を持って対峙して行かなければならない。どんな運動を構築するのかが問われている。社会や国民が共感する、運動をどう作るかにかかっている。労福協の運動も、そんな事を十分に認識しながら組み立てていか

ないといけない。地域によって課題が異なる。それをどうするか、腹を割って話をしていくたい。」と挨拶した。

会議は、中央労福協と各ブロックからの報告後、意見交換に移り 1. 第61回定期総会の日程・運営等について。2. 生活底上げ・福祉強化月間の取り組みについて。3. 労働団体・事業団体連携行動委員会【共助拡大作業委員会まとめ(案)について】4. 2013年～2014年度活動方針の策定に向けてについて、活発な議論が行われた。

神奈川県労福協が東日本大震災避難者連帯事業に取り組む

東日本大震災で被災され、未だに避難を余儀なくされている方々を励まし、交流・応援したいと願い、神奈川県労福協、連合神奈川、中央労金神奈川県本部、全労済神奈川県本部などを構成団体として、事業展開に必要な分担金の要請や資金カンパ活動に取り組み、「東日本大震災避難者連帯事業実行委員会」を2012年に設置し、事業を展開してきた。

2013年、実行委員会では、神奈川県内に避難をする約3,000人の方々を励まし・交流をはかる事業として、高校入試を控えている中学生を対象とする「高校入試説明会」や、大人も子供楽しめる「横浜ベイスターズの試合観戦招待」、「大相撲横浜場所への招待」など、昨年好評を得た事業を展開している。

高校入試説明会（写真下）では、当日、参加が出来なかった皆さんから再度の開催要望が寄せられ、11月に追加開催を行なう。また、昨年から好評の横浜ベイスターズの観戦招待では、福島出身

の中畠きよし監督との握手会が行われ、大相撲横浜場所への招待では、力士を相手に「わんぱく相撲」に参加することが予定されるなど、『思い出に残る』事業を展開している。

一方、福島県内に在住し、野外活動に制限を受けている子どもたちを夏休みに招待する「おいでよかながわ！パート2」（写真下）は、神奈川県三浦市に



ある「三浦ふれあいの村」に約40人の子供たちを招き開催された。参加した子どもたちからは、「3年ぶりに入った海、しおばい海水が口に入ったけど、久し振りの海に大興奮でした。小学6年生の思い出になりました。」と、喜びの手紙を頂き、また、絵日記を頂戴するなど参加者には忘れられない3日間となったようです。

東日本大震災避難者連帯事業は、喜びと思い出づくりに一役を担うこととなり、実行委員会は、微力ながら被災された皆さんとの交流と支援を続け、東日本大震災からの再生・復興に関わっていきたい。



沖縄

「反貧困全国キャラバン2013 in 沖縄出発集会」が8月22日 沖縄県総合福祉センターで開催された。澤田仁史弁護士（全国キャラバン代表）と横江崇弁護士（反貧困キャラバン2013 in 沖縄実行委員長）による開会挨拶・趣旨説明の後、大井琢弁護士による「沖縄における反貧困ネットワーク構築の必要性」と題した基調講演が行われた。その後、当事者による発表および12支援団体のリレートーク等が行われた。沖縄県労福協からも国、県、労働団体、経済団体が一体となり幅広いサービスをワンストップで提供する「グッジョブセンターおきなわ」の取り組みが紹介され、ハローワークやパーソナル・サポートセンター等の入居団体が、就労から生活に関わる機関と緊密に連携し支援していくことの重要性を訴えた。翌23日は県庁前広場とハローワーク那覇周辺で街頭宣伝活動を行った。両日ともに実行委員の一員として多数の職員が積極的に参加しキャラバンの沖縄出発の一翼を担った。



福岡

「反貧困全国キャラバン2013 in 福岡」の取り組みは、弁護士、司法書士、NPO等が中心となって実行委員会を構成し、具体的な活動計画を協議してきました。福岡県労福協も実行委員会のメンバーとして参画し一役を担った。

佐賀県から引き継いだキャラバンは、9月12日に久留米市内、13日は福岡市内、14日には北九州市内で街宣行動を展開した後、熊本県へリレーした。福岡では、運動を継続するという意味合いから、シンポジウムの開催を11月22日に計画し、今後も実行委員会を開催しながら対策を協議することとしている。



・福岡市内の街宣活動 (左)
・鹿児島市内の街宣活動 (右)

熊本県労福協は、ライフサポートセンターくまもと、連合熊本ユニオン等と共に、実行委員会に参画しており、「反貧困フェスタ2013 in くまもと」が9月16日（月・祝日）熊本市民会館で150名が参加して開催された。

反貧困フェスタ2013 in くまもとは、青山定聖代表（弁護士）の主催者あいさつのあと、早速基調講演に移り、熊本学園大学の高林秀明准教授から、「貧困の中の連帯」をテーマとして、雇用崩壊や社会（家庭・地域）の解体現象等、現代社会の病巣・側面をまじかに捉えた内容の講演があった。

さらに、反貧困全国キャラバンの活動報告（県内をキャラバンカーで街宣）があり、今回から新規に参加した団体の報告として、「熊本県発達障害者会リトルビット」、「ピープルファースト熊本」、「定時制・通信制の灯を消すな！県民集会」から自己紹介や活動紹介があった。続いて、本日出展している団体の各ブースで、それぞれの活動が行われ、「生活支援・路上脱出ガイド（熊本版/A5版44ページ）」も配布され、必要な方に今後配布することになった。

初めてのフェスタは一定の成果を収めながら15:30閉会した。



鹿児島

キャラバンカーが全国を巡回する「反貧困全国キャラバン2013」

は、鹿児島では、街頭でのチラシ配布と出発式を8月28日に行い31日まで4日間、県内をキャラバンカーが巡回した。出発式では、県労福協も生活困窮者自立支援制度の確立や、生活保護引下げへの対処を含む取り組み等について報告し、29日は県労福協がキャラバンカーの運行を担当し、鹿児島市から霧島方面を終日街宣した。

31日は、「貧困はどこに向かうのか」をスローガンに自治会館で集会を行い、鹿大大学院教授の伊藤周平教授が「生活保護制度改革と社会保障のゆくえ」と題して記念講演を行った。集会では、生活保護者の報告や講演を通じて、120名余りの方がセーフティネットのあり方を考えた。



求めて、働く間らしい生活とつながろう！

反-貧困 ANTI-POVERTY CAMPAIGN 全国 キャラバン 2013

やさしい社会にするために 私たちの町をもつと

北海道

反貧困ネット北海道の具体的な行動は以下の通り。

1. 子供の貧困ワークショップ
8月24日（土）1:30～17:00
(北海道クリスチャンセンター)
①講演「子供の貧困」と「貧困」の関係
講師 松本 伊知郎 北大教授
②ワークショップ
「子供の貧困 今私たちにできること」
参加者 40名
2. 貧困問題ミニ講座 in チ・カ・ホ
8月26日（月）12:00～18:30
(札幌駅前地下歩行空間)
①「障害者と貧困について」
②「うわっ…私の奨学金、ヤバすぎ…？」
③「DV家庭の背景にある貧困」
④「ひとり親家庭の現状」
⑤「生活保護について」
⑥「自立援助ホームについて」
⑦「ブラック企業問題と、知らないと損をする団結権」ミニ講座
を開催、それぞれ20～30名の参加者があった。
3. 行政への申し入れ
北海道・札幌市



山形市内の街宣活動 (左と下)



反貧困キャラバン in 北海道
ワークショップ
「子供の貧困」(8/24)
(写真左)

山形

反貧困全国キャラバン2013のキャラバンカーが山形入りするのに合わせ、加盟団体及び山形地区労福協の協力のもと、9月9日と10日に山形市中心部にて街頭行動を行った。

大泉理事長、門脇・三澤・武田副理事長、高橋専務理事が街宣カーから貧困問題の現状を訴えたほか、通行する方にチラシを手渡しながら「私たちの町をもっとやさしい社会にするために一緒に声をあげよう」と貧困問題への理解を求めた。



制度の運用を中心に論戦を交わした。講演会は、8月17日に大分市で開き、『日本の貧困はどこに向かうのか』のテーマで、弁護士の宇都宮健児さんとホーレス支援全国ネットワーク代表の奥田知志さんとの対談を行った。



大分

『人間らしい生活と労働の保障を求めて、つながろう！』をスローガンに掲げ、昨年に引き続き実施された「反貧困全国キャラバン行動」。キャラバンカーが、9月19日から3日間大分に入った。

労福協も参画する県実行委員会は、キャラバンカーで県内を巡回し「街頭宣伝活動、行政への要請行動、そして、講演会等」を行った。県労福協も一連の行動に積極的に参加し、共にその趣旨・目的を訴えてきた。

要請行動は、日程の都合上、大分県と大分市へ行き、「生活保護

中部労福協

第1回労働福祉運動・労働者福祉運動の 理念・歴史・リーダー養成講座 開催される

中部労福協ではこれまで2012・13年度の活動方針に基づき、中部労福協独自による労働福祉運動理念・歴史・リーダー養成講座の実施に向けた準備を進められてきたが、去る8月27日（火）～28日（水）、会場「大阪キャッスルホテル」にて72名の参加のもと第1回目が開催された。

講座の内容は①「労働者自主福祉運動の理念・歴史、そして課題について」中央労福協の前参与高橋均氏（写真下左）②「労働者福祉の創造者・賀川豊彦の基本思想に学ぶ」と題し賀川記念館の参与 西 義人氏 ③「日本の保障事業における共済の存在意義について」全労済 大阪府本部 総務部長 中井信司氏 ④「労働金庫の歴史と意義について」近畿労働金庫 大阪地区統括部長 山本昌則氏 ⑤「協同

組合と労働組合の連携強化・利用促進に向けて」（労働団体・事業団体行動委員会の議論経過）について 中央労福協 事務局長 大塚敏夫氏からそれぞれ講義・提起を頂いた。この講義を受けた後、中部労福協12府県にそれぞれ分散し、講義を聴講した上での相互の感想や気付きを述べ合い、さらには、各単協での今後の取り組みなど検討するなど、内容の濃い講座を実施することができた。参加者からも充実した講座であったとの評価をいただき無事第1回目を終了することができた。



南部労福協

第1回労働運動・労働者福祉運動の 理念・歴史・リーダー養成講座開催

2013年8月30日（金）13時～31日（土）11時までの間、長崎市のワシントンホテルにて47名の研修生が参加して標記講座が開催された。

講座は、南部ブロック労福協の舛田憲二事務局長の司会で始まり、まず森光一会長（写真下右）が「今回は、南部労福協とし初めての開催となる。講座内容を十分理解して、各組織の存在意義を確認し合いましょう。今後皆さんの、活動に期待したい。」と主催者挨拶を行った。講義1は、中央労福協アドバイザーの高橋均氏より「労働者自主福祉運動の理念と歴史、そして課題」をテーマに講義が行われた。講義2は、連合本部非正規労働

センター総合局長の寺田弘氏より「働くことを軸とする安心社会（非正規労働者に関する取り組み）」をテーマに講義が行われた。講義3は、消費者生活センター消費生活相談員の野口宏子氏より『「賢い消費者になるために」若者のトラブルで最近の相談件数の多いテーマ』をテーマに講義が行われた。翌日は講義4として、早稲田大学社会科学部教授で経済学博士の田村正勝氏より「日本社会と協同組織事業に期待するところ－危機の時代のものの見方考え方と“惜福の経済”」をテーマに講義が行われ閉幕した。

全体として興味深い講義が続き、もっと聞きたいとの声が多く寄せられアンケートの結果も良好であった。

